

視 察 報 告 書

報告者氏名： 青木 秀介

委員会名： 民生常任委員会

会 派 名： 自由民主党

期 間： 令和 6年 11月 6日（水）～ 11月 8日（金）

視察都市等及び視察項目：

豊田市 アドバンス・ケア・プランニング（ACP [通称：人生会議]）の推進について

滋賀県社会福祉協議会 子どもの笑顔 はぐくみプロジェクト
について

札幌市 子ども発達支援総合センター「ちくたく」について

所感等：（豊田市）

豊田市では、自らが希望する医療やケアを受けるために大切にしていることや望んでいることを周囲の人たちと事前に話し合い共有する「アドバンス・ケア・プランニング（ACP[通称：人生会議]）」の取組を推進するために市民向けにガイドブックを作成し、その重要性や具体的な進め方についてわかりやすく説明をしています。また、市内の医療機関や介護施設とも連携し、アドバンス・ケア・プランニングの実践に支援をしてもらっているそうです。元々、豊田市は平成26年の介護保険法の改正により平成30年に「豊田市在宅医療・福祉連携推進計画」を策定し、令和元年に意思決定支援に関する検討ワーキングを経て、訪問看護師・薬剤師・ケアマネジャー等の専門職と意見交換を行い、令和2年からこの取組を始めたそうです。その後、医師会や介護事業者等からも意見をもらい、より多くの方に認知してもらえるように努めているところだそうです。本市においても同様に平成30年より「横須賀版リビング・ウィル」を

作成しエンディングプラン・サポート事業を推進しています。全国的にも本市は先進的に事業に取り組んでいるためChatGPTと並び他の自治体・議会から視察に大変多く来ていただいています。ニュース等でも最近取り上げられています。国立社会保障・人口問題研究所が令和6年、日本の将来推計人口を公表しましたが、令和12年に5,773万世帯とピークを迎え、令和2年には約38%だった単独世帯が、令和32年には約45%になり、世帯の中で身内と話をしなくなる方々が国民の約半分になってしまうそうです。「アドバンス・ケア・プランニング(ACP[通称:人生会議])」を実践したくても話す相手がいなくなるという世の中が近い将来訪れようとしています。様々な機会に「アドバンス・ケア・プランニング(ACP[通称:人生会議])」の重要性を理解していく取組の必要性を強く感じました。また、マイナンバーカードの余白スペースに個人の自由意志ではありますが、書き込みの可能性なども検討してもよいかと思います。



(滋賀県社会福祉協議会)

少子高齢化に歯止めがかからない今、悩み多き子育て世代に対して、抜本的な対策が求められています。国では新たに「こども家庭庁」が令和5年4月に設置され対策を検討しています。「こども家庭庁」の創設の背景としては、子どもの居場所がないことは孤独・孤立の問題と深く関係しており、子どもが生きていくうえで居場所があることは必要不可欠であり、地域で子供たちを育て

いこうという方向性が示されています。

滋賀県社会福祉協議会では、子どもや高齢者、福祉人材などが「つながる」ことができる仕組みをつくり、孤立・孤独を防止する取組を行っています。その取組の1つとして、滋賀県内100か所以上に広がる「遊べる・学べる 淡海 子ども食堂」の継続的な運営のバックアップなど、子どもを真ん中に置いた地域づくりをさらに進めるための応援団をつくるプロジェクト「子どもの笑顔 はぐくみプロジェクト」を立ち上げ、行政とも連携しながら、子どもの居場所づくりなどに積極的に取り組んでいるそうです。本市では、横須賀市社会福祉協議会が中心となり未就学児の親子を対象とした親子サロン「ポケットひろば」を月に1度開催しています。地区社協単位では、ふれあいサロンを推進していますが、子どもと保護者を対象としたサロンも滋賀県と同じ趣旨のもと25か所で開催されています。少子高齢化が叫ばれて、すでに30年近くたっていますが一向に改善されることはなく、むしろ加速度を上げて悪化しているように思われます。これから子供を産み育てていこうと思っている方々に対して、可能な限り負担を軽減できるよう、全市一体となって取り組んでいかなければならない、最重要課題であると認識をあらたにしました。

(上記の報告書作成に当たり、視察時に頂いた資料や各視察先ホームページ等を参照しました。)



(札幌市)

札幌市子ども発達支援総合センター（愛称ちくたく）は、お子さんの体や心の発達、情緒面や行動面的な支援を目指すために、複数の施設が集まった複合施設です。特に神経内科病院からスタートしたこちらの施設は、児童精神科、小児科、整形外科を持つ医療部門に加え、児童心理治療施設、福祉型障害児入所施設の入所部門、就学前のお子さんのための通所施設部門としての児童発達支援センターがあります。それぞれの部門が協働しながら一人一人のお子さんに対して必要な支援を考えていくという施設だそうです。本市と比べると、医療部門については横須賀市療育相談センターの診療部門（小児神経科・小児精神科、リハビリテーション科、耳鼻咽喉科、摂食外来）がありますが、児童心理治療施設は本市では設置はなく他の自治体に依頼をしています。福祉型障害児入所施設については県立三浦しらとり園をお願いをし、児童発達支援センターについては横須賀市療育相談センター（ひまわり園）がありますが、本市の特徴としては、こども家庭支援センター内に児童相談所と療育相談センターを有しています。それぞれの施設が、密に連携を取りながら重層的に支援をしています。毎年、出生数が減っている中で、障害をお持ちのお子さんの数が増加しています。核家族化が進んでいる現在では、ご家族の負担は計り知れません。国が中心となった、寄り添うような継続的な支援の必要性を再認識しました。

